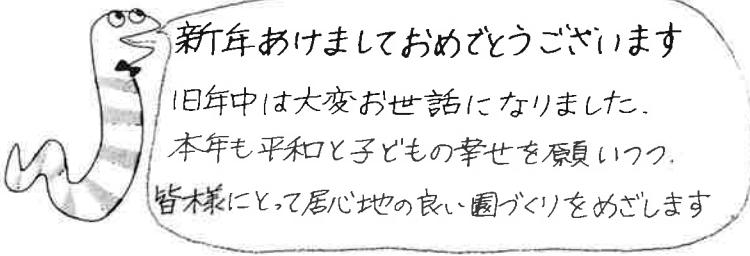


ゆりか 2025.1.4
より

4期(1~3月)のねらい
表現活動を通して心を育てよう
卒園・進級を期待しよう



新型コロナウイルスが猛威を振るっていた頃、感染防止対策として、2階クラスの子どもたちの送迎を8:00から18:00の時間帯は玄関での受け渡しを実施していました。お迎えに来た保護者が「弟妹の準備をしている間、兄姉が事務室で待つことがあります」の間、それぞれの子が「好きなぬり絵や折り紙、などなどやしりとり」と、たなびをして待っていました。その時の名残かどうかはわかりませんが、新型コロナが5類になりました。通常保育に戻ってからも「しりとりしよう！」と事務室にやってくる子たちがいます。

このしりとり、幼児は家庭でもせてひやてもらいたい遊びです。現役の保育士時代、「〇のつくことば」という頭字さがしや、ことばを音節で区切るゲームなど、子どもたちとよくあそんできました。遊びを通してことばの認識が確かなものになります。まさに思っています。私は子どもとしりとりをする瞬には、何度もやりとりをした後に、最後に「ん」のつくことばを言うようにしています。「先生の負け！」と勝ち誇った顔を向ける子どもを見るのが大好きです。

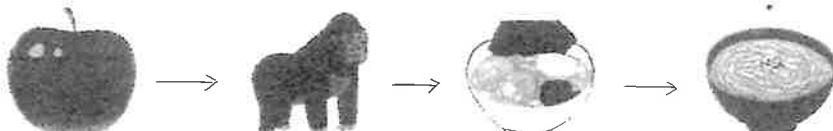
4歳児のSくんも帰り際に「しりとり！」とやってきますが、弟のRくんもお兄ちゃんの真似をして事務室に登場するようになりました。

R「しりとり」

私「りんご」

R「ゴリラ」

私「ラーメン + …と」



しりとりのルールを理解している子は「先生の負け！」となるところですが。

R「ラーメン、ン、ン、ン…」と言った後「そば！」と連想ゲームになってしまった。これには大笑い。Rくんはまだ2歳児です。ルールにのってゲームを楽しむのはもう少し先のようで、大人とかかわって遊びを楽しめたのだなと思います。

事務室の戸は軽く開くと言われていますが、新しい年にしても、子どもたちにはどんどん来てもらいたいです。

さて、しりとりと言えば、昨年末にス園した園児の名前がなんと、ンから始まる名前なのです。事務室でのしりとり遊びに変化がでるのか…。今から楽しみでなりません。